

友達と常に高め合いながら勉強に励むことができた

H. I.

信州大学 繊維学部 機械・ロボット学科 進学
水戸市立 双葉台中学校 卒業

通常の授業では、ただ教科書を進めるだけでなく、身近な例を出して解説して下さるとともに、数学などでは他の解き方の方針も教えてくださるなど、先生方が工夫を加えて授業をして下さります。そのため、知識を定着させるだけでなく、問題に対する広い考え方を身につけることが出来ました。さらに、放課後に自分の行き詰まった問題を質問しに行くと、私が理解できるまで心よく解説して下さるため、塾に行かずとも自分の学力を上げることが出来ました。また、学習面だけでなく、進路を決める際にも先生方は親身に対応して下さりました。私は大学受験で推薦入試を受けたのですが、その面接練習に何回も付き合ってください、とても心強かったです。

私は高校1年の5月から高校3年の5月までバドミントン部で活動していました。夏休みの練習や勉強との両立など、辛いこともありましたが、自分の好きなスポーツであるバドミントンを通して一貫生や先輩方と関わりを持ち、楽しく活動することが出来たため、卒業した今でも部活動を続けていて本当に良かったと心から思います。

私が中学3年の頃、茨高は真面目な人が多く、堅い学校であるという勝手なイメージがありました。しかし、実際に入学してみると決してそんなことはなく、接しやすく個性豊かな人たちばかりでした。これは真面目ではない人が多いということではありません。茨高は授業やテストなどではとことん勉強に集中し、楽しむときにはとことん楽しむといったメリハリのついた人たちが多いです。特に高校2年の後期あたりになると、学年全体が「受験」を強く意識し始めるため、私自身も友達と常に高め合いながら勉強に励むことができました。入学時に学力でのクラス分けや特待制度のある他の私立高校に行っていたらこのような体験はできなかったでしょう。

私は、この茨高で培った自信を活かし、大学では繊維という無限の可能性を持った素材についての知識を深め、そしてゼロから新しいものを作るエンジニアになるためにこれからも日々精進していこうと思います。